

私と国有林

「地域と歩む千頭山国有林」

川根本町まちづくり観光協会長 望月孝之

母なる大井川の支流寸又川の上流部は大森林地帯となっており、最深部には大井川源流部原生自然環境保全地域があり、全国で5箇所のうち、本州では唯一の重要な地域で我が国の宝物です。

その地を含め約2万6千畝が国有林で、千頭山国有林と呼ばれています。江戸時代には徳川幕府の御料林として管理され、豊かな森林は江戸・京都・駿府などの有名な建物の用材

として伐り出され、川を流送された歴史が有ります。また、戦後復興のため、当地の木材が全国各地に向けて供給されました。

寸又川流域には古い時代から人が住みつき、小さな集落をなしていましたが、私の住んでいる大間地区は、その代表的地点で、小学校・郵便局・商店などがあり、何より国有林・林業の最前線基地となっており、林班頭の家系は大勢の山林労務者達を束ね、林業の一手を任せられ、各地から若い衆が集まっていました。

昭和に入り、豊かな流れと急峻な地形は、電源開発に着目され、昭和10年に湯山発電所が建設されました。資材運搬などのための森林軌道が敷設され竣工後は、千頭営林署が利用することとなりました。千頭森林鉄道の誕生です。流送から鉄道への輸送の転換は、新たな林業の出発となるとともに、大間地区の人々も森林鉄道を利用させてもらい、本当に助かりました。中学生も自宅から通学でき、物資の輸送も楽になりました。エンジンの音が今も耳に残っています。



千頭森林鉄道

何と言っても、寸又峡温泉の源泉は、国有林内にあります。湯山には、かつて温泉が湧き、深山の隠れ湯だったと聞きますが、電源開発により湯脈が無くなり、20余年新たな温泉発掘を夢見てボーリングさせていただき、念願が叶い、今日の寸又峡温泉が誕生致しました。昭和32年、源泉地にドラム缶が置かれ、温かい湯に浸ったことが昨日のように思い浮びます。

去年は、寸又峡温泉50周年の佳節を迎え、様々な記念行事も執り行われました。先人の苦勞に感謝すると共に、私自身、走って来た道を振り返る機会となりました。

昭和37年、奥泉から大間地区に道路が新設され、自動車にてこの地に入ってくる事ができるようになりました。



50周年式典

ました。源泉から4キロ、温泉管も敷設され旅館も建てられ、バスによる観光客を迎えられることになりました。寸又峡温泉を訪れるお客様のほとんどが、自然と触れ合うことを望み国有林野内の遊歩道に入ります。国有林は、レクリエーションの場の提供などにより地域の活性化に寄与していただいています。

しかしながら、現在、千頭山国有林内に、林業を営む姿はほとんど見られません。やはり人の手が入る方が山は保全されます。光岳や不動岳への登山も再開できればと願います。山道が造られ、原生自然環境保全地域であり、南アルプス南部光岳森林生態系保護地域でもある貴重な地域を見学できる日を夢見しています。



光岩